

地域計画

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	令和 年 月 日 (第 回)
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	四国中央市 38213
地域名 (地域内農業集落名)	川之江北地区 (長須・余木・井地・鉄砲町・山下・馬場・旭町・農人町・大門・塩谷・東町・川関・通町・小山・大道・住吉・春日・川原田・大下・平木・通谷・中組・脇の山・古城・石ノ口・切山・金沢・城下・中新町・新町・北新・下川原・高木・西川原)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	181 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	60 ha
② 田の面積	89 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	89 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	0 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	2 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	－ ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	－ ha
(備考)④⑤の数値は、「農業を担う者」の確認できている数値とする	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

当地区は、平坦部では宅地化が進んでおり、住宅周辺の農地では、営農が困難な状況になっている。高齢化等による担い手不足により、荒廃農地の増加が懸念され、地域外に担い手を求めることが必要な状況にある。

収益性の面などから営農継続に不安を感じている農家が多い。

山際を中心に、有害鳥獣被害が発生しており、営農や住環境の悪化が懸念される。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

当地区は、畜産農家や山間部では果樹農家が多くを占める。畜産農家から出る堆肥を、果樹、耕種農家との連携で利用促進を図り、安定生産を行える土づくりを進める。里芋は、水稻との輪作体系が確立している。

高齢化に伴い経営規模を縮小する農家の農地や、耕作が困難となった農地については、担い手を中心となり、可能な範囲で農地を借り受け、地区内の農地の保全及び耕作を継続する。

- ・地域コミュニティーの活性化のため、地区内外から農地を利用する者を確保
- ・都市向けに販売するノウハウが必要
- ・人材を集めたユニット形成が必要

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
現状を維持しつつ、可能な範囲で担い手が農地を集約する。			
(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	3	%	将来の目標とする集積率
			4 %
(3) 農用地の集団化(集約化)に関する目標			
未定			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1) 農用地の集積、集団化の取組	
現状を維持しつつ、可能な範囲で担い手が農地を集約する。	
(2) 農地中間管理機構の活用方法	
営農が困難になった農業者や、分散錯圃の解消に協力できる農業者は、農地中間管理機構の活用を検討し、農地の維持を図る。	
(3) 基盤整備事業への取組	
大規模な基盤整備の予定はないが、老朽化設備の改修や小規模な整備を進める。	
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組	
関係機関と連携し、地区内外から多様な経営体を確保する。 地域の子どもたちに農業の魅力を伝える取り組みが必要(読み聞かせ等を実施)。	
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組	
作業効率に期待できる作業は、委託実施を検討する。	

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④畑地化・輸出等	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携等	☐ ⑩その他
【選択した上記の取組内容】				
①鳥獣被害が拡大しないよう防止柵等を設置する。				

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状				10年後 (目標年度:令和 16 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積		経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
認農	A	養豚	0.4 ha	0 ha		養豚	0.4 ha	0 ha		
認農	B	養豚	0.3 ha	0 ha		養豚	0.3 ha	0 ha		
認農	C	果樹	1.2 ha	0 ha		果樹	1.8 ha	0 ha		
認農	D	酪農、水稻、果樹	1.2 ha	0 ha		酪農、水稻、果樹	1.2 ha	0 ha		
認農	E	果樹	1.9 ha	0.1 ha		果樹	1.9 ha	0.1 ha		
認就	F	果樹	0.2 ha	0 ha		果樹	1.6 ha	0 ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
			ha	ha			ha	ha		
計	6経営体		5.2 ha	0.1 ha			7.2 ha	0.1 ha		

- 注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
- 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
- 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
- 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
- 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)		うち計画同意者数(人・%)	
-------------	--	---------------	--

- 注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
- 注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
- 注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。